

第84回 横浜市公立大学法人評価委員会会議要録

日 時	令和2年8月19日（水）14時00分～16時00分
開催場所	横浜市立大学みなとみらいサテライトキャンパス
出席委員	工藤委員長、蟻川委員、有賀委員、大久保委員、河合委員
欠席委員	なし
法 人	二見理事長、相原学長、遠藤副学長、中條副学長、下澤事務局長ほか
事務局	高橋大学担当理事、大塚大学調整課長、井上大学調整課担当係長 ほか
開催形態	公開（傍聴者 0名）
議 題	<p>1 第83回横浜市公立大学法人評価委員会会議要録（案）について</p> <p>2 令和元年度 公立大学法人 横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果（原案）について</p> <p>3 その他</p>
決定事項	
議 事	<p>主要な発言は、以下のとおり。  <u>（○：委員発言、△：法人・事務局発言）</u></p> <p><b>※議題1について&lt;資料1&gt;</b>          特に意見なし</p> <p><b>※議題2について&lt;資料2&gt;&lt;資料3&gt;</b>  <b>&lt;資料2&gt;</b>          ○「V-1 業務運営の改善に関する取組」において、先般の患者情報漏洩事案を加味しB評価としている。一方、「IV-4 先進的医療・研究に関する取組」では、患者情報漏洩事案の影響も踏まえた評価も含まれているが、各委員の評価が「A・A・B・A・A」となっており、項目全体としては多数のAにまとめさせていただくということでご理解いただければと思う。          ○法人の自己評価と今回の評価委員会の評価案とで異なっているものとして「V-1 業務運営の改善に関する取組」がある。先般の患者情報漏洩事案について、善後策は講じられているものの、遺憾な事案として指摘せざるを得ないと考えている。これは反省を促すだけでなく、今後への奮起を期待したいという趣旨も含んでいる。          ○こういう形でS・A・B・C評価は整理し、項目別、総括的評価をみていく。</p> <p><b>&lt;資料3&gt;</b>  <b>&lt;項目別評価&gt;</b>          ○P10「V-1 業務運営の改善に関する取組」の留意点として「無給医問題」がクローズアップされているが、どういう経緯で記載しているのか。          △資料2の「V-2 財務内容の改善に関する取組」にあるコメントをもとに記載した。          ○これは今般の新型コロナウイルス感染症でクローズアップされたということか。          △大学院生が無給で従事している等のニュースも出ており、その辺りを踏まえた表現とした。          ○無給医問題は今に始まったことではない。評価書をまとめるにあたり、各委員からの評価案に従って忠実に表現したほうがいいと思う。この評価書を見る人にとってもその方が分かりやすい。デフォルメを加えると評価書全体の信頼度が下がるリスクもある。          △2年ほど前の報道で全国的に無給医問題が取り扱われたことが発端と認識している。法人としても、現年度分で支払うべきものは現年度の人件費で、過年度分については臨時損失の扱いで支払う対応を行った。無給医問題自体が生じたことは間違いないが、今般の新型コロナウイルス感染症で改めてクローズアップされたかどうかは捉え方によると思う。</p>

- 当該項目を「V-1 業務運営の改善に関する取組」から「V-2 財務内容の改善に関する取組」の法人全体の赤字に関する記載の箇所に移設し、「なお、赤字の要因の一つが無給医問題への対応であり、今後とも法人で適切な対応が図られていくことを期待する」とする形でどうか。
- 確かに無給医問題はあった。記載するのであれば、「V-2 財務内容の改善に関する取組」に記載することがいいと思うが、そもそも、今回の評価書の中であえてクローズアップする必要があるかは考える必要がある。少し表現を変えるという考え方もある。
- 報告書を見て、センター病院の赤字の主な要因が無給医問題への対応と理解した。附属病院でも無給医問題への対応を行っているにも関わらず、黒字になっている。この違いは何かあるのか。
- △附属病院、センター病院とも大学院生などが研修しており、無給だったわけではなく、例えば、週3日従事したが給与支給は2日分のみであったという事例があった。センター病院が赤字だった主な理由は電子カルテ更新の減価償却費が、億単位の負担だったことによるものである。
- 無給医で赤字になった訳ではないのであれば、言及する必要はないかもしれない。
- 市大の病院だけの問題ではないし、あまりここでハイライトするものどうかという気もする。
- それでは、「無給医問題」の記載は削除することで整理する。他に何かあるか。
- P6の「I-1 教育に関する取組」について、「志願倍率で一般的な水準を上回る」とあるが、国立と比べてなのか、あるいは私学と比べてなのか、基準が不明瞭で分かりづらい表現となっている。「一般的」というのは何を以てそう表現しているのか。
- △本学の他の研究科と比べてという趣旨で表現したが、「一般的」という表現では分かりづらいため、表現は変えた方がいいと思う。
- 「一般的な」という表現をやめて、「初年度入試における高い志願倍率という結果を出し」に修正する形でどうか。
- これは初年度の話なので、前年度と比べることもできないとすると、他研究科の志願倍率に比べると高かったという趣旨だと思う。
- △倍率という視点もあるが、社会人をできるだけ受け入れたいという中で、社会人の志願者数が多かったという点は、社会の要求に応えることができたのではないかと考えている。
- 社会人が多かったということは非常に評価できると思う。「一般的な」という表現は何と比べているのか分かりづらい。
- 評価書は委員会が提示するものなので、各委員が一番言いやすい表現であるべきである。志願倍率という言葉は本委員会ではあまり使わない表現なので、「多数の応募者があった」でも構わないと思う。
- △現役の医師など、多様な志願者が応募し、入学したこともよかったと思う。
- 社会人をはじめ多数の応募者があったということが、法人のこれまでの様々な取組が反映された結果であるということ委員会として表現したいということではないか。

- 「初年度の入試において、多様で多くの志願者を集め、また社会人においても6割以上を確保するなど」といった表現でどうか。多様性というのも大事なことである。
- P7の「Ⅲ 国際化に関する目標を達成するための取組」について、主な指標である留学生比率、派遣比率は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、前年度を下回っている。一方で、協定校数の増加や交換留学生の増加、奨学金制度の立ち上げ、志願者の増加、合格者の歩留まりの改善、留学生就職促進プログラムの充実など、実績もあげている。
- 現行の表現では実績が下回ったという内容が強調されてしまうので、順番を入れ替えるなどし、努力の成果がみえる表現に変えたらどうか。結果的に新型コロナウイルス感染症の影響は非常に残念ではあるが、それぞれの取組はしっかり進めてきたことについては評価すべきだと思う。
- △努力は続けてきたつもりであるが、残念ながら、留学生比率、派遣比率は及ばなかった。ご指摘のように説明いただければ嬉しく思う。
- △新設した給付型奨学金制度について、7名の留学生にアンケートを取ったところ、5名がこの制度が理由で市大を選んだという回答があったことを踏まえると制度としては有効だったと考えている。この制度が浸透してくれば、更に多くの志願者を集められるのではないかと期待している。
- 実際に留学生の志願者も増加し、合格者の歩留まりも改善した。しかし、実際には来られなかった学生もいるのか。
- △実際に入学した留学生のうち的一名は、来日できておらず、まだ母国にいながら授業を受けている学生いる。
- △新型コロナウイルス感染症の影響という点では、短期で受け入れる予定だった学生が、年明けの1月から3月の間の実績として伸びなかった。
- 昨年度の1月から3月の第4四半期で足踏みとなったという理解でいいか。指標を達成していないから指摘しようとしている委員はいないと思う。例えば、「留学生の受入は、～改善された。また学生の派遣では～一定の成果が認められた。なお年明けに至り、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、指標のうえで伸びなかったのはやむを得ない面があったことを理解している。」といった表現はどうか。こういった趣旨で事務局に表現の精査を検討してほしい。
- 評価の文章というのは評価する部分と課題を指摘する部分の順番を工夫することで、読み手にとって読みやすいものになる。最後の部分で前向きな表現を入れておくといいと思う。
- △趣旨としては、委員の皆様がおっしゃることと同じ思いなので、言葉の入れ替えをする方向で精査する。
- 「Ⅳ-2 附属2病院に関する目標を達成するための取組」について、「初期臨床研修医のマッチング率で100%を維持できなかった。影響は少なくない」とあるが、どのような影響があるのか。分かりづらい。
- △医師の確保における影響ということである。
- △最終的には全部マッチングできたが、最初の募集段階では100%を割った。そのような状況が続くと志願者の評判にも影響が出てくる。
- そもそもマッチング率を100%にするということは相当難しいことと思うのだが。
- △例えば、都会の大学には希望者が集まりやすく、都会でなくても大規模な病院には集まるなど様々な傾向がある。
- △同じ市内の病院でも人気の高い病院もある。毎年、このテーマについて学院内の臨床部長会で議論しており、立地の問題や専門的な症例が多くコモンディーズが取り扱えないことなどが定員割れの理由として挙がっている。改善に向けた努力を続けている。

	<p>○それでは、「100%維持できなかったことは医療人材の確保上影響は少なくない」と修正する形でどうか。</p> <p><b>&lt;総括的評価&gt;</b></p> <p>○データサイエンス研究科設置について、社会人の方が多く入学したということを強調した方がよいと思う。国際化の留学生比率や派遣学生比率等の記載はこの案でよいと思う。</p> <p>○国際化の記載部分の文末表現が「注目したい」となっているが、他の部分は「特筆に値する」「評価できる」となっている。各委員ともに「S」「A」と評価している項目なので、一定の成果を着実にあげていることを「評価できる」としてもよいと思う。</p> <p>○P4の医療面の記載で「医師、看護師、コメディカル」となっており、P5では「職員の士気の高さ」「教職員一体となって」といった表現になっている。職員の士気の高さには「教員」も入るだろうし、「役員」の方々も入ってくると思う。医師や看護師を特出しして触れる箇所以外は「全役員教職員」といった表現でもよいと思う。</p> <p>△教員も士気が高いのでぜひ入れてほしい。</p> <p>○その他、何かお気づきの点がある場合は事務局までメール等でお知らせいただきたい。具体的な文言調整は私と事務局に一任させていただければと思う。</p> <p><b>※議題3について&lt;資料4&gt;</b></p> <p>○再整備の方向性の(4)について、若干分かりづらかったので、もう少し捕捉説明がほしい。</p> <p>△これまで大学病院として、いろいろな地域への医師派遣であったり、全市的には災害拠点病院、高度救命救急センター、特定機能病院等の機能を担ってきたが、こうした機能や役割は引き続き果たしていく必要があると考えている。また、当該地域における今後の医療ニーズや福祉ニーズ等を見極めながら、必要な跡地利用を検討していくということを表現している。</p> <p>○資料裏面にある「根岸森林公園」も今回の再整備に活用していく想定があるのか。</p> <p>△既に「公園」として利活用されているので、今回の再整備で活用していく想定はない。左側の細長い網掛けの部分が「根岸住宅地区」になり、ここを有力な候補地として検討していきたいと考えている。</p> <p>○「根岸住宅地区」と「根岸森林公園」は徒歩でどのくらいかかるのか。</p> <p>△最短距離で数分程度である。</p> <p>○返還に向けた進捗状況は。</p> <p>△順次、検討が進められており、このところ、より現実味が高まってきている状況である。市大医学部・附属病院等の再整備の検討と並行して、根岸住宅地の跡地利用の検討も進められており、国等の関係機関と調整していくことになる。</p>
<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>[配付資料]</p> <p>資料1 第83回横浜市公立大学法人評価委員会会議要録(案)</p> <p>資料2 公立大学法人 横浜市立大学の令和元年度の計画に対する各委員評価一覧</p> <p>資料3 令和元年度 公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果(原案)</p> <p>資料4 横浜市立大学 医学部・附属病院等の再整備の検討について</p> <p>[参 考]</p> <p>公立大学法人横浜市立大学関係資料</p>